

いい人がお金で困らない 仮想通貨

—新時代のルール—

Vol.2

ビットコインの登場は
「ブロックチェーンの発明」でもあった

text by Gen Matsuda

文 松田 元

ビットコインを発売したのは「ナカモトサトシ」という正体不明の日本人です。2008年になった9ページの論文をインターネット上に発表し、2010年から実際にアメリカで使われ始めました。

最初はビザ2枚がビットコイン1万BTCと交換されたことで知られています。2018年現在、ビットコインは発行上限の2100万BTCのうち、すでに約1700万BTCが発行されていて、1BTCあたり数十万円で取引されています。この時ビットコインを受け取ったビザ屋がそのまま保有していれば、今ごろ本業以外で莫大な利益を得ているでしょう。

チェーンのほうが、人類にとって重要な発明であると確信しています。

それこそ、コンピューターやインターネットに匹敵するほど、世の中を大きく変える発明です。

コンピューターやインターネットが発明されて10年ほど経った程度段階では、何がすごくてどのように生活が変わるのか、人々はとても理解できなかったはず。今のブロックチェーンも、ちょうどそのような段階だといえます。

この凄いブロックチェーンで何ができるか

ブロックチェーンは、「オーバーツ」(謎の人工物とでもいえるもの)で、ルーツが判然としない世界の七不思議のひとつだと思っています。

僕は「ナカモトサトシ」も、たまたま地球に降り立って、別の文明からブロックチェーンを持ち込んだ宇宙人なんじゃないかと勘ぐっているほどで、誰がブロックチェーンを考案したのかは、いまだに謎のままなのです。

それぐらい画期的なシステムなのですが、近ごろでは、ネットや雑誌の記事などで「ブロックチェーン」という言葉ばかりが独り歩きしている印象も

初めの段階では、プログラマーなどIT界隈の人々の間で、物珍しさから取引されていました。やがて、ジンバブエやキプロス、ギリシアなど通貨危機に陥っていた国々で、母国の通貨を信じられなくなり、自らの資産を守るためにビットコインを購入する人々が増え、そのたびにビットコインの価格は急騰したのです。

すると、それに目を付けた投資家が、新たな投機商品としてビットコインを購入するようになりました。ビットコインの取引所もできましたが、前述のように2014年には当時最大級だった取引所「マウントゴックス」で、ビットコインの大量消失事件が発生し、代表者が業務上横領の疑いで検挙されました(本人は無罪を主張)。

確かに、ビットコインは画期的な「電子のお金」ですが、ただ、電子通貨の構想や実用化は、それ以前から行われていました。プリペイドカードやICチップも、一種の電子通貨といえます。ビットコインはいったい何が画期的だったのかといえば、次の二点の特徴を備えていたからです。

- ・中央管理や運営をする者(企業)が必要ない
- ・それなのに、取引データの改ざんが

ありません。

しかし、実際にブロックチェーンを使って、「非中央集権」「改ざん不能データ」といった利点を活かして、本格的に事業を興そうとしているところは、まだ少ないのが現状です。

アプリケーションの中にブロックチェーンを組みこんではいるものの、「特定の企業が管理している」「改ざんされても問題ないデータである」などで、ブロックチェーンを使う必然性に欠けたものが目立ちます。

「ブロックチェーン」は、単なる目新しい売り文句としてのみ消費されるべきではありません。従来のインターネット技術によって解決できなかった課題や、実現できなかった娯楽を、ブロックチェーンによって実現させるべきなのです。

まずは、ブロックチェーンで何ができるのか、どのような影響を社会に与えるのかを、実際の商品やサービス、ユースケース(新たなシステムが動き出すこと)によって、私たちは何をできるようになるのか)で示していく必要があります。

好影響も悪影響も引くくるめて、ブロックチェーンをみんなが理解し、身近に感じる段階をそろそろ踏む必要が

できない

つまり、ビットコインの正体は、「特定の管理者がいないにもかかわらず、不正な操作ができないデジタルデータ」なのです。ビットコインの取引データは、世界中の多くの端末において自動的に同じものが分散的に保存されています。

そのため、一部のデータを改ざんしても、他の端末に保存された記録と照合すればすぐに発覚するのです。これを不正に改ざんするには、暗号化された取引データが保存されている、すべての端末へ同時に侵入してハッキングを実行しなければなりません。しかし、それは事実上不可能とされています。

この非中央集権型のセキュリティシステムは、いつしか「ブロックチェーン」と呼ばれるようになりました。暗号化されたひとまとまりのデータが「ブロック」として保存され、過去のブロックとともに「チェーン」のように履歴が繋がれていくからです。

このブロックチェーンの史上初の応用例が、たまたまビットコインというデジタル通貨だったといえるのです。僕はビットコインよりもブロック

ありません。

ブロックチェーンの凄さが世間で理解されるには、ブロックチェーンを使った商品、サービスが普及し、ユースケースが実践的に知られていくことが大切です。

ブロックチェーンを応用したサービスによって、新しい利便性や楽しさ、感動などが広まっていけば、ブロックチェーンそのものの認知、使い道に対する理解も、おのずと広まっていくと考えています。

今までの革新的な技術と同様、ブロックチェーンの普及や理解は、時間が解決するはず。将来的に、いずれは普及していくとしても、出来るだけ早期にブロックチェーン事業に着手することが求められています。



「いい人がお金に困らない 仮想通貨 新時代のルール」(KKRクレアリス) 定価・本体1300円+税 好評発売中



Profile

実業家、投資家。
早稲田大学商学部卒業。在学中より学生ベンチャーを創業。
同時期、複数のベンチャー企業におけるインキュベーションを実施。
卒業前の2006年2月、アズ株式会社を創業。
現職は、株式会社オウケイウェイヴ代表取締役社長、OKfinc LTD. CEO、Wowoo Pte.の事業・技術開発支援を担う。